



## 未来の「環境市民」を育てるために ～雑木林の保護活動の経験から～

日本女子大学教授 田中雅文(センスオブアース会員)

埼玉県の南部には、広大な面積の平地林(丘陵や山岳でない平地の雑木林)が残っている。しかし、いずれ開発の波によって消滅する可能性があるということで、「ここに住むオオタカを守ろう」——より正確に言えば、オオタカを食物連鎖の頂点とするほどのゆたかな自然生態系を守り育てていこう——という意識から、1994年6月に(財)埼玉県生態系保護協会の所沢支部を中心とする自然保護活動「おおたかの森トラスト」が生まれた(注)。筆者は、このトラスト運動がスタートする前後から数年間にわたり、地元の子どもの会の世話役の一員であった。この子ども会は「おおたかの森トラスト」が発足した当初から参加し、自然保護の大切さを体験的・継続的に学んだ。

当時の具体的な活動をあげると、「自然たんけん」と称する雑木林での月々の自然観察会、森の生態系を育てるための諸活動——ゴミ拾い、除石、外来種の植物の除去、車止めの柵の構築、在来種の苗木の植樹など——、農業に用いる堆肥づくり、川の浄化や農地の土壌改良に用いるための炭焼き活動などである。廃品回収で集めたお金の一部を同トラストに寄付するばかりでなく、地域住民にも呼びかけて多数の人から寄付の協力も得た。さらに、森の保護政策を進めてもらうため、地元の市長にお願い文を提出するとともに、子どもたちの代表数名が市長に直接会って意見を述べた。

このように、地道な自然観察から大人社会への訴えかけまで幅広い活動を行なうことは、子どもたちの意識にさまざまな刺激を与える。例えば、活動を重ねるうちに、子どもたちと野生生物の心情的な「きずな」が生まれてきたように見受けられる。市長へのお願い文に添えた個々の子どもたちからの手紙のなかに、次のような表現がある。

「森や林は虫や動物にとっては、すむ場所なのです。だから、森や林を切るということは、家をこわしていることなのです。」(小学4年・男子)

「虫や動物の家をこわす」というとらえ方は、「人間」対「野生生物」という対比よりは「(自然をこわす)大人」対「(友だち同士の)子ども+野生生物」という対比が、子どもたちの心のなかに根づいていることを感じさせる。一方、自分たちが守ろうとしている自然の生態系が、じつは厳しい弱肉強食の世界であることに気づいた子もいる。その子は、自然たんけんの感想文に次のような文章を記した。

「自然たんけんでは、オオタカがハトを食べたあとのようなものを見ました。『かわいそー』とさいしょは思ったけど、人間だってぶた肉とか牛肉を食べているんだから同じことだと思いました。それに、オオタカだって、食べないとおなかすくし……。ああ、頭がこんがらがってきたあー。」(小学4年・女子)

このように、雑木林の観察や保護といった体験活動から、野生生物との心情的なきずなの醸成、守るべき自然がじつは弱肉強食の世界であることの見え、開発と保護の間の葛藤を解決するための政策提言の初歩的試みなど、さまざまな学習が生まれたのである。体験のもつ「教育力」の大きさを感ずる。付言すれば、筆者自身にも、子どもたちと共に活動することによって野生の生き物と「身のレベルでつながっている」という感覚が生まれ、それが自分自身の自然保護に関する市民意識の土台となっている。そして、そのような筆者と子どもたちとの間に生まれた相互作用——「学び合い」——が、お互いの学びを深めたといつてよい。

もっとも、私たちの社会の歴史を振り返ってみると、今の大人たちが子どもの時代には、より多くの自然体験の場があったといわれる。実際、野山で遊び、虫や植物と触れ合う機会は確かに多かったであろう。しかし、そのようにして育った大人たちの多くが、どの程度まで自然保護の感覚を身につけているだろうか。自然破壊を促してきたのは、じつは子どものときに充実した自然体験を行った現代の大人たちである。

このように考えると、自然環境を大切にしようという意識が育つためには、単に体験するだけでは不十分である。体験をとおして社会課題を考え、価値観・世界観を磨くプロセスが必要である。例えば、専門家の話を聞く、自分たちで自然保護について話し合う、自分の感じた問題を感想文に書く、社会参加の練習として政策提言書を作ってみるなど、体験したことを市民意識の醸成につなげる工夫が必要となる。未来の社会を担う立場である子どもたちが、自然体験をとおして「環境市民」として大きく育ってほしいと強く思うこの頃である。

(注)「おおたかの森トラスト」の詳細については、<http://www2.tba.t-som.ne.jp/ootakanomori/> を参照。

<本稿は、田中雅文「体験から生まれる学び」上杉賢士編『いのち・からだ・こころ』の本質的な学び(教職研修12月号増刊)教育開発研究所、2004年、50-53頁の一部を抜粋・修正したものです。>

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053  
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp

# 第二回 沖縄・美ら海備瀬でのエコツアー

超低価ツアー

NPO法人センスオブアース・市民による自然共生パンゲア 主催  
美ら海沖縄一人・文化・大自然にめぐり逢う  
感動の旅で何かが変わる

日程 2005年9月8日(木)~11日(日) 3泊4日

暑い夏、あなたは今年、何に挑戦しますか。自然の旅も大きな心身のダイナミズム。この旅は、どんな旅行社も、企画できない、NPO法人センスオブアースのみのオリジナルツアーです。現地での滞在は全て、沖縄、ネイティブとのつながりでできた企画です。そして、そこにいるだけで、地球のどこかとしっかりつながった気持ちになる、そんな旅なのです。そして、日頃の疲れをいやし、新たなエネルギーをわきたたせてくれるスポーツと自然を学ぶとびきり楽しい旅でもあります。



## 1.センスオブアース エコツアーの特長《NPOならではの企画》

- 現地のウミンチュ、オバーたちとの交流
- 東シナ海の海辺の自然観察
- サンゴなど自然生態系について専門家による環境学習
- 美しい魚を見ながら、シュノーケリングや遊泳一絶景
- 浅い海の小島をまわる二人乗りカヌーの体験
- 美しい自然を守ってきた人々と地球に感謝するボランティア活動（海辺のごみひろいなど）
- 参加した仲間と大の字になり星空の観察や交流
- 自己を見つめ、静かにふりかえる永遠の時間が流れる旅

## 2.日程〈6月1日現在〉

現地の事情で、順序・内容を変更する場合があります。

### 9月8日(木)

- 午前 羽田出発
- 15時頃 現地備瀬に到着
- 備瀬区長表敬訪問あいさつ
- 海辺散策・シュノーケリング遊泳

### 9月9日(金)

- 午前 海辺のごみひろい
- 昼 沖縄料理作って食べてオバーたちと交流
- 午後 昼寝・サンゴの観察と保全作業
- シュノーケリング

### 9月10日(土)

- 午前 カヌー体験
- 午後 新里のヤマと海辺の自然観察とネイチャー創作（貝殻の首飾り作りなど）
- 夜 交流会

### 9月11日(日)

- 終日 美ら水族館見学 那覇へ移動 時間があれば那覇公設市場買い物・見学
- 夜 帰京 羽田へ

○宿泊先 ホテル ゆがふいん備瀬  
(沖縄県国頭郡本部町字備瀬 1147-1)

## 3.費用

8万円以内《料金に含まれるもの》

- ①航空運賃 ②宿泊費 ③食費 ④環境学習費 ⑤見学、カヌー・シュノーケリング体験費用、道具代 ⑥保険 ⑦レンタカー、ガソリン代、高速代（那覇から現地まで2時間弱の移動などに利用）など 各種オプション代、ちゅら海水族館入場料、全食事代を含んでいます。

エコツアーのお問い合わせは NPO センスオブアース まで

お電話で…03-3960-6052 e-mailで…okinawa@npo-soe.jp

お申込み受付 2005年6月1日(水)~30日(木)

お申込は 4ページの申込用紙にご記入の上 Faxでお申し込みください。  
後日、資料ならびに催行契約書などをお送りいたします。

第一回の観察会は、生田山が絶滅危惧種をも含めた生命の宝庫であることを参加した全員が実感した『小さな旅』でした。2時間半を過ぎてもまだ見ていたい数々の植物にあふれた山、生田山。もう一度観察を続けたいという声を受けとめ、企画してみましたので、植物をたくさん見て、調べ、楽しく名前を覚えて、いろいろな楽しみ方をしていきたいと思います。(お詫び：第二回の観察会を一般の方も含めご案内していましたが、関係機関の事情により、日本女子大生、NPO センスオブアース、専門家によって観察を続行することになりました。当日の観察記録については、後日誌上にて報告いたします。)

第一回観察会参加者のみなさんの感想です。

〈藤波めぐみ〉今回観察会に参加する中で、私は自分が成長するにつれて、木や草や花を「緑」「自然」とただ一括りにして見るようになっていたことにはたと気が付きました。これまでの私の育った環境は、決して自然の美しい環境ではありません。生まれ故郷は海や山に囲まれていましたし、学校ではどの時期も窓から見える景色は森でした。にも関わらず、その森にどのような植物があったのか思い出せないのです。関心が無かったからでしょう。大学には「緑」だけでは表現できない植物が生い茂っていました。普段は雑草だと思っているような草も、その特徴や名前の由来を知ると、急に可愛らしく見えてきました。私は観察会後、「何という植物かな」と思う機会が増えました。自分の関心が高まったことに喜びを感じています。今後も活動を続け大学にはこんな植物があったと言えるようになりたいと思います。

〈榎本茉莉恵〉生田の山の中に入ってみて

観察会の日は暑かったが、森の入り口あたりに立った時に冷たい風がふっと流れてきておどろいた。

森の中に入るとやはり、外とは気温が違い若干涼しい。地面の違いや植物達が作る木陰からの気化熱の影響だろうかと思った。高橋さんは下見で2回ほどすでにこの山に入り観察していたそうだが、植物に詳しくこのような活動になれているだけあり、「まだ〇〇は無いですね」「この前はあったのだけれど・・・」とおっしゃっていた。まだ、山に入ったばかりだったので、植物を見分ける能力や見つける能力が全くなく、すごい、と思った。同時に、当たり前のことであるが植物や山はどんどん変化していくものなんだ、と言うことを肌で感じた。

しばらく歩き様々な植物の名前を教えてもらい山を巡るうち私達も少しづつ植物を見つけたり見分けることができるようになってきた。みんなで、あれはこうだとかいやそうではない！とか、馬鹿馬鹿しいあだ名をつけて覚えたり楽しく歩いた。生田の山は特別急な斜面やすべりやすかったり、高くて急ながけは無い。また様々な木がある場所もあれば同じ種類の木しか生えていない場所もある。開けていて小さい草や低木があるところもあるし高い木に囲まれた道もある。歩いていて苦痛ではないし変化があって楽しい。是非、色々な人が大事にこの自然を味わって欲しいと思う。

〈小椋朋美〉宝の山、生田山

観察会当日、とても暑い日だったのですが、木陰に入ったとたんに、ひんやりと涼しく、「森は、やさしく私たちを迎えてくれた。そんな気がしました。

山の中にはエゴノキ、アカンデ、ヤマザクラ・・・など、たくさんの種類の木々が生えていました。生えている植

物の名前を知って歩くと、更に一つ一つの植物をじっくり見るようになりました。楽しむ秘訣は名前を楽しく覚えること。木々の歴史、由来など聞くと一層感心します。

この日、私たちに課された宿題は、珍しいとされる、サイハイランが、今後どんな花を咲かすか観察するという事です。それは生きているものだから日々違う姿を見せているということを示唆していると感じました。あれからどうなったのかしら？ 近々友達を誘って見に行こうと思います。

生田の山は最近、夏に向け新芽を伸ばし、緑がまぶしいです。その木陰で、木漏れ日を浴びながら成長しようと頑張る赤ちゃんの木、木陰で休む虫、美しい鳥たちの歌声……。命詰まった山は私たちの宝物です。次回の観察会でも宝探しに出かけたいと思います。多くの人と感動を共有できたらいいと思います。

〈新田章子〉これまで2年間通ってきて、そしてこれから2年通うことになる山。これまでその山に入った回数は数えるほどしかなく、入っても空気の清々しさや木漏れ日、光を通す木々の葉の色、鳥の声…そういった感性的な部分で感じることにしか出来ませんでした。それもとても大事なことだと思うけれど、楽しみきれなかった部分がありました。気持ちがいいけれど、なぜか今ひとつ生命に触れているという実感が湧いてこなかったのです。しかし、今回の観察会を経験して、「山」が「生命を持った山」なんだということを実感できたように思います。

講師の高橋さんにはたくさんの植物の名前、鳥や虫の名前を教えて頂きました。それまで「綺麗な黄色い花」だったものが「キンラン」へ、「白いひょうたんみみたいな変わった形の花」が「ミヤマナルコユリ」へ…奥に進むにつれ、これまで「草・花・鳥」だったものが「私たちと同じように名前を持つ生命」へと認識が変わっていったのです。そのことにより、1つ1つ名前を覚えてもらうごとに、「こんなにもこの山には生命が存在しているんだ」という驚きと感動を実感することができました。そしてそう実感すると、まるで草花や木々、鳥達の声が山の中でざわざわとひしめき合っているように思えてくるのでした。

これまでずっと自然に関わる活動をしたいと思ってきましたが、他の地域に囚われて、こんなに身近な生田の山にはあまり目を向けてきませんでした。しかし、今回感じた感動は、私の視線をもっと身近なこの山に惹き付けてくれたのです。まだまだこの山には知らないことが眠っていて、私の知らない世界が豊かに広がっているのでしょう。これからはWonderの感覚を大切にして、その知らない世界を探求し、このかけがえのない生命を守る活動を進めていきたいと思っています。それが地球全体の環境を守る活動にもつながっていくと信じて。

# 7月のナチュラル活動のご案内

**7月27日(水) 12時～17時** (既に7月28日でご案内していましたが、  
巡視船の作業状況により変更となりました。)

夏休み特別企画<君もトムソーヤの気分を味わえるか!?!>

## 巡視船『あらかわ』で夏の荒川を探検しよう!

ふだん見慣れた「荒川」も、船の上から視点をかえて眺めると、全くちがう姿を見せてくれます。

巡視船『あらかわ』に乗船して、いざ、夏の荒川探検へ!

荒川を下り東京湾、隅田川を周り再び荒川に戻る約4時間の冒険。目に映るすべてが、印象深い夏の思い出になることを約束します。

日 時: 2005年7月27日(水) 12時15分までに集合～17時解散

集合・解散: 荒川知水資料館(amoa)1階 待合いロビー(北区志茂5-41-1 tel 3902-2270)

JR赤羽駅 徒歩20分 東京メトロ 南北線 赤羽岩淵 徒歩15分

費用: 500円(保険代・資料代・乗船代は無料)

参加資格: どなたでも参加できます。子ども大歓迎!

申込締切: 7月15日。先着順35名まで。

申込方法: 下記申込み書ご記入の上 FAX または同内容をEメールでお申送ください。

お申込後1週間以内にご参加可否のご連絡をします。

予定コース: 荒川知水資料館見学(12:20～12:50)

～岩淵出発(13:00) 荒川くだり～東京湾～隅田川～岩淵着(16:30) 現地解散(17:00)

持ち物: ノート、筆記用具、双眼鏡(持っていれば)、合羽などの雨具、飲料、酔い止め薬 など

☆昼食は各自、済ませてから集合してください。また、当日の12時から12時15分まで、集合場所ロビーをお弁当などを食べる場所として開放しますのでご利用ください。

☆巡視船はお菓子などの食べ物、アルコールの持ち込みは禁止です。(お茶などの飲料は可)

☆船内は禁煙です。

☆当日の天候(強風による)、ならびに巡視船業務の都合により日程が変更になる場合があります。

お申込み締切後に変更が生じた際は、センスオブアースから、参加者各自に電話などでご連絡します。

### ナチュラル活動参加 申込み書

参加されるイベントの( )欄に○印を、参加される人数も必ずご記入ください。

メールの場合は下記と同一の内容をメール本文にご記入の上お送りください。

( ) 巡視船『あらかわ』で夏の荒川を探検しよう! (申込締切7月15日)

ご参加人数 大人高校生以上( )人 子ども中学生以下( )人

( ) 沖縄・美ら海備瀬でのエコツアー (航空券確保のため申込締切6月30日)

ご参加人数 ( )人

(ふりがな)

お名前

ご住所

電話番号

メールアドレス

(携帯可)

☆いづれのイベントにつきましても、お申込後1週間以内に、ご参加に関してのお知らせなどをセンスオブアースからご連絡いたします。

☆お知らせいただいた個人情報は、NPO法人センスオブアースが、個人情報に関する法令を遵守し管理いたします。

お申込FAX E-MAIL NPO センスオブアース宛

FAXで…03-3960-6053 e-mailで…info@npo-soe.jp